

1139



414
926



擬定條約

第一條

茲係約ヲ結ヘル兩國其人民ノ間ニ永世ノ平和無窮ノ慈親アルヘシ

兩國ノ人民ハ定メ通ル噸稅燈費引船賃及ヒ港入費等ヲ拂ヒ外國高賣ノ為ニ開キタル港或ハ内河或ハ市場ニ甚障ナク人船荷物トモ入込ム事勝手タルヘシ兩國ノ人民ハ地方ノ政府ヨリ其為メ指示ヲ取極メタ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

大正十一年四月

ル開港場ノ規程中ニ於テ寄留シ或ハ居住スル事勝手
タルハシ

指示シ取極メタル規程ナキ時ハ開港場何レノ區分ニ
テモ其高賣ノ為メニ一區ノ地ヲ借受ケ住宅倉庫ヲ所
持スル事叶フヘシ

兩國ノ人民何レモ左留國ノ法律命令ニ從フ時ハ一般
ニ充テノ保全守護ヲ受クヘシ

第ニ條

兩國ノ人民何レモ其外政代人物領事副領事領事代人等ヲ命
ジ外臣貿易ノ為メ開キタル場所ニ在留セシムル權理
テ、ハシ而シテ此等ノ官員ハ万国ノ通法及ヒ習俗ニ
從テ、類役ノ常ニ受ルニ均シキ權義特許ヲ有スヘシ
兩國ノ政府ヨリ命セラレタル外政代人ト惣領事領事
副領事領事代人トハ一國ノ部内ヲ旅行スル事勝手
ルハシ尤其在勤セル官邸ヲ出發セント思フ時豫シメ
其告知ヲナシ他ノ一國ノ政府ニテ適當ト思フ時ハ其

旅行中相當ノ禮義及ニ注意ヲナフヘキ用意ヲスル為
ノニ便スヘシ

兩國領事ハ自國ノ船難破シ或ハ其國人ノ生命又ハ所
持品被害ニ罹ル事アリテ其証跡ヲ探問ノタメ其場所

ニニ事叶フヘシ

此寺 値ツテハ先ツ書面ヲ以テ此旅行ノ趣意ト行先
ノ場ニトテ地方官ニ告知シ地方官ニテ適要ナリトセ
其命スル士官ト同道スヘシ

第三條

此條ヲ施行シ日三ノ〇〇國民ノ為メ又ハ其高賣ノタ

メニ日本國ノ左ノ港ヲ閉クヘシ 此所ニ港名ヲ開列ス

○ 民ノ住スヘキ場所ノ周圍ニ牆壁ヲ設ケス門柵
ヲ構ヘス其他自由ノ出入ヲ妨クヘキ圍ヲ營マサルヘ

シ又日本人ノ〇〇國ニ住スルモ斯ノ如クナルヘシ

○ 國ノ人民ハ日本人ノ定ルヘキ土地取締ノ規則
且自國ニテ平常互ノ便宜及ニ禮節ニ付テハ定則ヲ遵

行スルニ於テハ左ノ規程ニ勝手ニ赴往スルハシ
從來遊歩規程陸續キ十里外へ出ル時ハ其地名及ヒ
旅行中ノ時限等ヨ取極メ其國領事ヨリノ願書ヲ以テ
其地方官へ願出地方官ヨリ往來切手ヲ渡スヘシ此旅
行ニ由ラ許ス上ハ外國人都テ日本政府ニ於テ設立
スル法律ヲ守ルヘシ若シ往來切手ヲ持タスシテ右規
程十以外ハ旅行スル時ハ一百圓ノ罰金ヲ取立ヘシ
此條及ヒ他ノ條ニ付日本政府ハ平常其從民ノ安全ノ

守ヲ行ハルヨリ別ニ〇〇國人民へ重モニ或ハ格別
ニ守ヲ警衛ノ與スルヲ約セス此儀辨明約諾ス
萬一〇〇國民不幸ニシテ身体所持物ニ傷害ヲ受ル
ルハ其傷害全ク政府ノ手ニ成リ又ハ損害ノ來ル
原因ヲ前以テ政府ニ証據ヲ引テ指示スニ之ヲ取用セ
ス或ハ豫備ノ策ヲ申立テモ政府惜リテ之ヲ採用セス
或ハ平常ノ審判ノ律ニ基キ罪民ヲ罰スルニ手ヲ下ス
ヲ怠タリ屢延スル等ニアラサリシヨリハ之ヲ政府ニ

引受テ償金ヲ出ス事ナカレハシ自体及ヒ所持物ヲ日
本人ヨリ損害サレタル〇〇國民ハ夫ト同一ナル事件
ニ付裁判ノ法ニ因テ日本人ノ得ルニ同シキ權義及ヒ
償還ノ法ヲ得ヘシ併ナカラズ、如キ場合ニ於テ本人
其語仕方ヲ尽シタル時裁判局ニテ無理ナル疑ヲ發
シテ意ヲ以テ裁判ヲ否ミタル時、外ハ本國政府ニテ
此事トニ介入ル事アルヘカラス、
可國ノ内一國ノ人民他ノ一國中ニ住スル者其信仰ス

ル所ニ付テハ完全ナル自由アリテ其宗教ヲ行フ
ニ付故障ヲ寫セスル、ナク其寺觀或ハ礼拝ノ場所ニ
於テ教儀ヲ修スルヤ障リナク其地ノ國法習俗ヲ敬重
シテハニ相當ナル敬礼ヲ尽シ之ヲ騷擾シ之ヲ妨害ス
ル事ナシ

第五條

日本政府ハ其國法ヲ釐正シ訴訟裁判ノ法ヲ編制スル
ヲ務メリ其体裁ハ其國ニ依リテ之ヲ各國中良好

ナル支配ト同一ナルハシ欲正全ク了リ一年、后新立
ノ裁判ヲ施行スル迄ノ間ニ。國民ノ間ニ起ル所ノ
所持品又ハ身上ニ拘ハル爭論ハ。國ノ官吏ニ於テ
裁判スヘシ

兩段ノ諾、上別段、裁判所ヲ設立シ或ハ此條首ニ述
ダシ告知ヲナス、后一年ノ間ニ。國民ヨリ日本國
民ニ對シタル訴訟起ラハ日本官吏之ヲ決断スヘシ且
前文ニ述タル一年ノ期ヲ越ヘテ日本從民ヨリ。

國民ニ對シタル訴訟或ハ冤屈ノ虞々ハ最早。國ノ
官吏ニ因テ決断セラル、事勿ルヘシ

。及ビ日本國ノ兩政府ハ其從民等カ互ノ納得上
ノ約ヨリ起ル連債ノタメニ責ニ任セス繼令其從民
等詞ヲ設ケテ政府ニ代ツテ約ヲ結フヲ許サレタル趣
ヲ陳ヘ正シク指圖ヲ受タル由ヲ云ヒ或ハ命セラレタ
ル書ヲ以テ之ヲ陳スルトモ更ニ其責ニ任スル事ナ
シ

兩國の間に商民本人納得の上一國の政府又ハ商民
ト約ノ結フハ自身一己ノ私益ヲ為メナレハ相手方信
ヲ失ハス約ヲ守ルヤ金銀ノ融通悪カラサルヤ皆其身
ノ自ラ擇定メタル所ナレハ後來争ヒヲ起スル決シテ
政府中入ヲ頼ム權義ハナキ事ト承諾セルモノト視
成ルハシ

政府、國民ノ公利公權ニ拘ハル事ニ注意スヘク夫レ
反シテ其利益悉ク一人ノ私ニ歸スヘキ事件譬ハハ品

物代是等 訴訟ナランニ延拂ニテモ又ハ即納ニテモ
本人ニテ其拂ヲ受ル丁慥カナルヤ否ヤヲ見込ニ其求
ムヘキ代價ノ輕重ヲ自カラ極メテ相濟マストモ又ハ
全ク相濟ニテ相濟マスル本人ノ意ニ在ルヘキ約定事
件ニ政府關係セサルナリ
故ニ斯ノ如キ場合ニ於テハ約ヲ結フ兩國ハ其外政代
人ヲシテ友情ノ扱ヒヲ以テ其同國人ノ代トナラシメ
不當寬濫ノ意ヲ以テ取捌ケシムルヲ許スヘシ保外政

代人ハ斯ノ如キ場合ニテハ決シテ政府ノ代ト視為ス
ラナラス

第六條

日本或ハ他ノ條約海國々ノ從民ニ對シ惡事ヲナセル
〇〇國ノ從民ハ日本ニ於テ別段裁判所ヲ設立スル迄又
ハ前ニ去ヘル新立裁判ヲ施行シタルヨリ一年ノ間ハ
〇〇國長官ニ訴ハル〇〇國ノ法度ヲ以テ罰スヘシ
ニケ羊以上ノ入宰ヲ命セラレヘキ罪科ヲ犯セルカ又

ハ六ケ月以上ノ入宰ヲ命セラレヘキ罪科ヲ二度犯シ
タル〇〇國人民ハ日本帝國中ニ居留スルノ權ヲ剥カ
ルヘシ
斯ノ如キ罪人ヲ日本國ヨリ放テ出サニ事ヲ日本政府
ヨリ請求シ〇〇國ノ外政代人ヨリ取極タル六ケ月ヨ
リ越サル期限ノ内ニ此帝國ヲ立出テサル罪人ハ〇〇
國ノ保護ノ權ト此條約中ノ諸權トヲ失フヘシ右六ケ
月ノ間ハ其居留ノ地ヨリ内地へ一里ノ路程ヲ立越エ

ヘカラス又日本政府ヨリ格別ノ免許ヲケルハ再度立
戻ル事ヲ得ス

第七條

〇〇國ノ貿易ノタメ開キタル各港ニ於テ〇〇國人民
ハ〇國或ハ他邦ノ港ヨリ禁制ニ非ル諸種ノ貿易品
ヲ輸入シ之ヲ販賣シ又ハ買入レ日本政府ニテ設クル
所ノ諸税ヲ納海ノ上ハ〇〇國或ハ他邦ノ港ニ輸出ス
ルノ勝手タルヘシ

定税ニ非ル高物ノ價ヲ〇〇商人ヨリ申立シテ運上所
士官ニテ異存アル時ハ其高物ニ價ヲ極メ其極メタル
價ニテ買入ルコトヲ談シ得ヘシ

若シ荷主此價付ニテ承諾セサル時ハ日本税関官吏ノ
極メタル價ニ從テ其税金ヲ納ムヘシ若シ其價付ニテ
承諾スル時ハ其談セシ價ヲ少シモ減スル事ナク直ニ
荷主ニ拂フヘシ

第八條

太政官

○。國ノ商人ハ日本國ノ開港場ハ高物ヲ輸入シ其稅
金ヲ納メシ上ハ日本稅関ノ長ヨリ高稅收濟ノ證書ヲ
請ヒ得ヘシ且此證書アラハ右高物ヲ日本ノ他ノ開港
場ニ出入スルモ又高稅ヲ納ムルニ及ハサルヘシ

第九條

○。國ノ從民ハ其高賣ノモノ開キタル港ニ於テ買入
タルハ本諸種ノ產物ヲ日本從民ニ屬スル同種類諸產
物ニ賦スルヨリニ多クノ稅額ヲ拂フ事ナク日本ノ船

ヨ以テ日本他ノ開港場ニ積送ルノ勝手タルヘシ若シ
○。高民日本ノ產物ヲ日本ノ開港場ヨリ他ノ開港場
ニ積送ラント欲スル時ハ其品物ヲ輸出スル時拂フヘ
キ運上ノ稅関ヘ預ケ置ヘシ六ヶ月内ニ他ノ開港場ヘ右
ノ荷物ヲ陸揚セシ趣ヲ示セル證書ヲ其地ノ稅関ヨリ
持參セハ右預置タル運上ハ異論ナク速ニ返却スヘシ
他邦ノ港ヘ輸出スルヲ嚴禁スル品物ハ前條ニ定メタ
ル期限内ニ前條ノ證書ヲ持出サザル時ハ積荷セシ者

兵別改馬ノ、慥ナル請合ノ者ヨリ右品物ノ代價ヲ残
ラス日本官吏ヘ拂フヘキ趣ノ詔タル證書ヲ指出スヘ
シ
然下雖モ其船若シ開港場ヨリ他ノ開港場ヘ運送スル
航海船破船スル丁アラハ右運送先ノ税関ノ證書ノ
代リニ破船セルト云フ証據ヲ別ニ持来ルヘシ
〇〇國ニ於テ一港ヨリ他港ヘ高貨ヲ積送ル特許ハ同
國滞在ノ日本人ニ於テモ同様タルヘシ

去テカラ日本ノ一港ヨリ他ノ一港ヘ又〇〇國ノ一港
ヨリ他ノ一港ヘ入地廻リ兵兩國内航海ノ義ハ雙方
自國ノ高船ニノミ限ルヘシ尤互ニ格段ナル免許ヲ以
テハ外國船ノ通行ヲ許スヘシ

第十條

〇〇國ノ人民日本開港場内ニ輸入シ高税納付ノ諸貨
物ハ日本人又ハ〇〇人ニ拘ハラス其荷主ヨリ日本國
ノ諸島ニ輸送セシメ得ヘシ勿論之ニ租税或ハ道路ノ

運上其荷等ノ税ヲモ日本從民ニ屬シタル同種類ノ荷
物ヨリ取立ルヨリ外ハ相拂フ事ナカルヘシ外國へ輸
出ヲ禁セサル日本諸種ノ產物ハ中外諸商人カ一般ニ
納ムル道路修復其他ノタソ取立ル租税ノ外ハ日本ノ
從民運送ノ運上其他ノ租税ヲ收ルナク日本ノ諸部ヨ
リ諸開港へ運送スヘシ此税納ノ主意ハ衆庶内地ノ租
税ヲ免レ難キ所以ノ意ニシテ決シテ〇〇國ノ從民ニ
賣渡サント志シタル為ニ或ハ外國輸出ニ屬スルタソ

ニ此税ヲ取立ルニハ非サルナリ
〇〇國從民又ハ彼等カ輸出シタル諸貨物ニ或ハ彼等
ニ賣渡サントタソ開港へ運送シタル諸貨物ニ此條款ヲ
以テ與ヘタル税納免許又ハ特許ハ〇〇國へ通商スル
日本從民へモ又ハ日本從民へ賣渡サント志シタル諸
貨ニモ同權免許アルヘシ

第十一條

結約ノ兩國國民ハ禁制ニ非ズル諸品ヲ一國民ヨリ他ノ

一國民、互ニ買賣スルコト妨ナク、其タノ官吏ノ立合
リ勿ルヘシ

兩國從民互ノ諸商賣ニ付平生自國ノ商民ト賣買スル
時納ル租稅ヨリ多キ高ヲ拂ハサルヘシ、結約ノ兩國各
其開港場ニ於テ欺偽ノ漏稅ヲ防クタメ其良法ヲ設ク
ヘシ

第十二條

結約ノ兩國政府ハ其一國ニ在留スル他ノ一國ノ人民

ヲ遣辨或ハ師表召使等ノ諸役ニ使用スルコト妨ケサ
ルヘシ、然リト雖モ若シ此使用ニ給セラレタル一國人
罪科ヲ犯ス時ハ各其國君ノ法度ニ基キ所分スヘシ
兩國ノ内一國ノ人民何レモ他ノ一國ノ船中ニ於テ諸
用ヲ辨スヘシ、併ナカラ其船長ヨリ證書ヲ出シテ斯ノ
如ク使用スル一國ノ人民ヲ相當ニ取扱ヒ后来急度其
生國ニ連歸スヘキ旨ヲ保用スヘシ
兩國ノ内一國人ノ諸使用ヲ辨スル為メノ雇人トナリ

此條ハ各國
政府ニ於テ
記載スルコ
ト要トシテハ
省ク

外國ニ出ル者ハ地方官ヨリ其タテニ免許ヲ受ヘシ

第十三條

日本政府ハ貨幣製造ノタメ造幣寮ヲ盛大ニセシニヨ
リ大阪本寮及ヒ開港場ノ渚出張所ニ於テ中外人民ノ
別ナク金銀地金ヲ受取リ其性合ニ從ヒ其實價ヲ以テ
日本貨幣ニ引換ヲナスヘシ尤百ニ付二半ノ鑄造料ヲ
引去ルヘシ

雙方ノ國民外國又ハ日本ノ貨幣ヲ互ノ拂方ニ用ユル

事勝手タルヘシ併ナカラ借金拂方ニハ何レノ種類ノ
貨幣ニテモ請取方ヲ強ムヘカラス又公納租税ノ類其
拂ヲナス國ノ造幣寮ノ貨幣ニ非レハ受取ラサルヘシ

第十四條

日本政府ハ〇〇國ノ貿易ノタメ開キタル各港ノ最寄
ニ船々ノ出入安全ノ為メ燈明臺燈明船浮木并ニ瀬標
ヲ備フヘシ尚其造營及ヒ設置ノ入費トシテ相當ノ高
ヲ取去ルヘシ

大正
官

第十五條

約ヲ結ブ兩國ノ内ナル一國ノ船一國ノ海岸ニテ或ハ
破船ニ或ハ漂着シ或ハ已ムヲ得ス一國ノ港内ニ避ケ
来ルヲアラハ其筋相當ノ長官之ヲ知ルヤ否ヤ其船ニ
成ルヘキ丈ケ扶助ヲ加ヘ其船中ノ人々ヲ懇ニ取扱ヒ
要用ナル時ハ其人々ヲ最寄ノ領事館ニ赴クヘキ便ヲ
與フヘシ

第十六條

〇〇國海軍備用ノ諸品ハ日本國ノ諸埠港場ニ陸揚シ
日本及シ〇〇國官吏ノ所持ニテ保護スル倉庫ニ藏メ
置ヘシ尤夫カタノ租稅ヲ收ムル事ナシト雖モ若シ此
備用品ヲ日本人又ハ外國人ニ賣ル事アラハ其買主ヨ
リ相當ノ租稅ヲ日本長官ニ納ムヘシ

第十七條

此條約ハ千八百八十二年^{ノ期限ハ相當ニ任ス}第七月一日迄施行
スヘシ尤此期限ヨリ一年以前或ハ其後ニテモ双方ノ

内ヨリ此條約終尽、事ヲ告知ス、シ此告知ヲナセシ
ヨリ一年ノ終期ニ此條約ハ能カナキモ、ト為スヘシ
然シナカラ告知ヨリ一ケ年ノ間ニハ尚能カアルヘシ

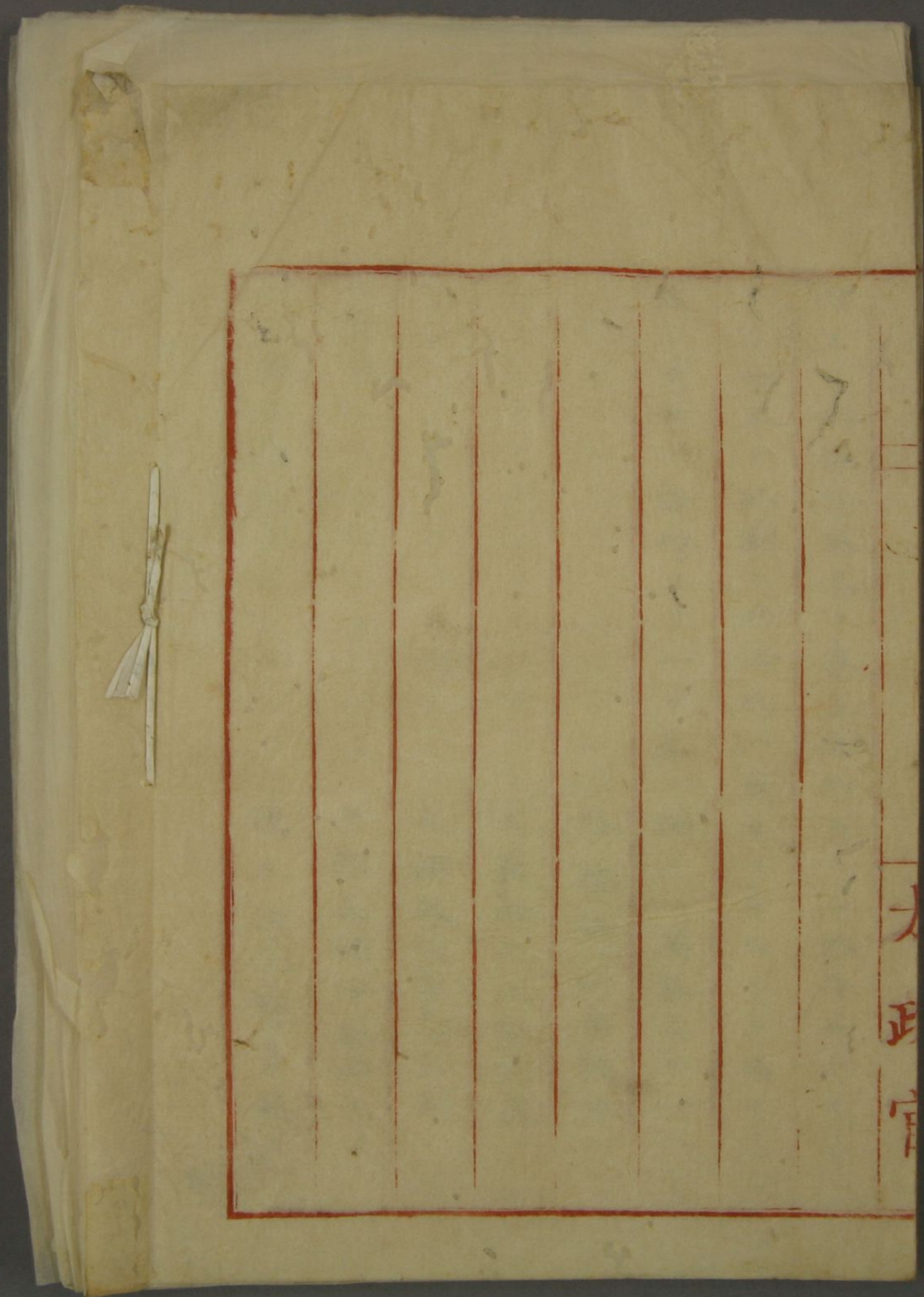
外務卿副島種臣

大藏卿大久保利通

大辨務使寺島宗則

工部大輔伊藤博文

從五位上野景範



大正
官